



黒部市の生地海岸に出現した上位蜃気楼で、「m」の上に「∞」が乗ったように見えるアート作品＝28日午後1時ごろ、魚津市内（戸高一雄さん撮影）

「m」の上に「∞」



黒部市生地方面の実景

黒部の海岸

魚津市内の海岸で28日、今年20回目の上位（春型）蜃気楼が観測された。魚津埋没林博物館は、5段階（A～E）で示す発生状態を、シーズン初となる上から2番目のBランクと発表した。

蜃気楼アート〜いかに

生管理マニュアルを改定し、児童生徒の体温チェックや日常的な消毒作業は不要と明記。感染不安を理由



富山駅に到着し祖父母との再会を喜ぶ子どもたち
＝28日午後6時35分ごろ（石黒航大撮影）

魚津で今季初Bランク

黒部市の生地海岸の堤防に設置されたm字型アート作品は、mの上に「∞マーク」が乗ったように変形して見えた。

m字型アートは、同博物館や黒部市美術館などが4月24日に設けた。2021年9～12月にアーティストユニット「山下麻衣+小林直人」（千葉県）が制作して以来2度目。

前回は、下位（冬型）蜃気楼の反転現象に伴って「∞」のように見えた。今回は、春の上位蜃気楼で上方に形が変化。魚津蜃気楼研究会の戸高一雄さんが撮影に成功し、「どんな形になるかと期待していた。面白い蜃気楼が現れて良かった」と話した。

この日の蜃気楼は午前9時40分ごろに出現し、午後2時ごろにBランクとなった。富山市方面の風景は広範囲にわたってバーコード状に伸び上がり、新湊大橋も大きく変形した。